

江戸時代の村と現代⑦

天明六年（一七八六）三月、大島村に中沢道二が来訪しました。時の石門心学大家の話を聞きに、たくさんの人々が集まったようです。史料「御祭儀奇特連名簿」序文）には、つぎのようにあります。

「天明六丙午三月、中沢道二先生、始めて当村に至りて、日数七日、続き道話有り、聴衆七八百人或は千人に至る（原漢文）」と。

仮にその数が延べ人数であったとしても、七日間で七、八百人以上ですから、一日当たり百人以上の人々が毎日、中沢道二の話を聴きに来たこととなります。もし、延べ人数でないとすれば、近隣村々だけではなく、遠く離れた地域からも、人々が大島村に大挙して押し寄せたことが想像出来ます。いずれにしても、大島村は、『新編武蔵風土記稿』という史料によれば、戸数二十七とあり、人口も極々少数の村であったことは確かです。村人口には、時代による多少の変動があるにしても、道二来訪の際は、他村からも大勢の人が集まってきたことだけは間違いありません。恭儉舎は、その前年である天明五年に設立され、道二来訪の翌年には新築講舎が造営さ

れたようですが、そのキャパシティを圧倒的に超える人々が、大島村恭儉舎付近に集ったこととなります。大島村を中心とした地域の人々が、いかに学習意欲が高かったのか、その一端が垣間見えるようです。

ところで、現代の学び舎でもあるカルスタすぎとと、恭儉舎とは、奇しくも同じ大島村内（江戸時代の大島村）にあり、比較的至近距離にあります。カルスタすぎと多目的ホールのキャパシティは、最大で二百八十人ほどあり、中沢道二が講話をするには十分な施設です。いかなれば、「カルスタすぎと」こそは、現代の恭儉舎、なのかもしれませぬ。（おわり）

※中沢道二：石門心学の普及に努め、その全盛期を築いた人物。



▲現代の恭儉舎（カルスタすぎと）

（社会教育課 町史・文化財担当編）

Enjoy Sports ★ スポーツ協会 Vol.10

杉戸町硬式テニス協会

問合せ 杉戸町スポーツ協会事務局  
社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



杉戸町硬式テニス協会の沿革

昭和59年（1984年）、3クラブにより杉戸町硬式テニス協会を結成。現在では、12クラブ（男子148名・女子95名 計243名）が加盟し、町内テニス大会の運営を行っています。

活動内容

年中行事として春季大会・スポーツ大会（体協祭）・混合ダブルス・壮年テニス大会を定期的に行い、町外のクラブ員、協会外の町内団体・個人ペアも参加することができ、楽しく活動しています。

生涯スポーツとして

ラケットと運動靴があればすぐにできます。初心者は壁打ちやコーチの指導で上達し、試合の仲間入りができます。試合はボールを追いかけ、足腰・呼吸器・内臓の鍛錬が無意識のうちででき、試合中のボールのラリーやサーブ、守備位置等々を意識することで認知症予防にもつながると思います。



▲第31回混合ダブルス大会表彰式

大会名	対象	ルール
春季大会	男女別ダブルス	6ゲーム先取
スポーツ大会（体協祭）		
混合ダブルス	男女ペア	
壮年テニス大会	男女別ダブルス	

▶杉戸町硬式テニス協会についての問合せ 会長 関 義信 ☎ (33) 3447 (FAX共通)



ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町 ホームページ



メール配信 すぎめー



広報スマホ版 マチイロ

